

# 市史編さんだより

2008. 7. 1

〒229-0021

相模原市高根 3-1-19

電話 042-750-8025

FAX 042-750-8039

発行 相模原市総務局総務課市史編さん室

ホームページ: <http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp>

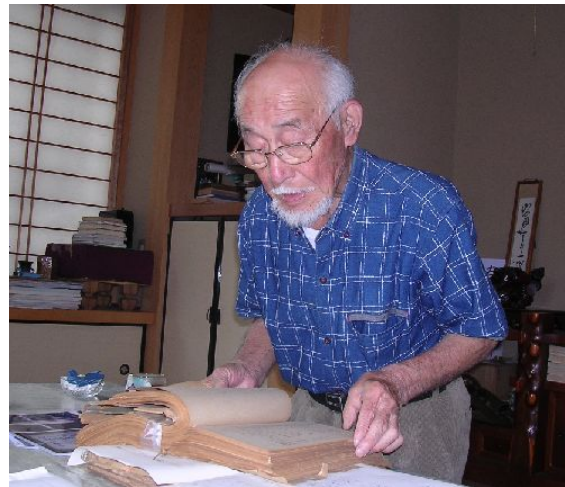
E-MAIL: [shishi@city.sagamihara.kanagawa.jp](mailto:shishi@city.sagamihara.kanagawa.jp)

半世紀を経て！返ってきた農地委員会文書

## 田名農地委員会資料

第二次大戦後、農地改革を目的として、全国に農地委員会が設置されましたが、相模原では田名地区を始め、8つの地区に農地委員会が設けられました。特に田名地区では、分散所有していた農地を、自宅から遠距離の農地と近距離の農地を交換し集約する交換分合が、田名農地委員会の主導により大規模に行われました。

この田名農地委員会の文書の一部が、東京都北区にある農林水産省農林政策研究所に保管されていました。市史編さん室では『現代資料編』の資料調査の際に、これら資料の存在を知りましたが、今回、同所より未整理分の田名農地委員会資料を引渡したいとの話があり、半世紀を経過して、このたび市に返還されました。



(懐かしそうに文書を手取る金子さん)

資料は、昭和20年から27年までの、田名農地委員会の文書綴り、台帳、交換分合計画書、地図など約47点、126綴りに及びます。

市史編さん室では、現在も田名塩田にお住まいで、かつて田名農地委員会の事務局長を務めていた金子仁太郎さん(写真)に、これらの資料を見ていただいたところ、「散逸せず貴重な資料が残されていてよかった。何らかのかたちで保存して後世に残してほしい。」と感慨深げに話されていました。

市史編さん室では、現在、これらの資料の整理と詳細目録の作成をしています。また、農林水産省農林水産政策研究所・農地制度文庫には、今回収集した以外に「神奈川県相模原田名地区農地委員会文書」として数点の資料が収蔵されています。

# 『自然編』 いよいよ今年度刊行

平成 16 年度から調査を続けてきた『自然編』も、いよいよ刊行の年度を迎えました。

『自然編』は、地形地質と動植物の 2 つの分野で構成されますが、ここでは、その内容の概略を紹介します。

## 地形地質分野

地形地質分野は概ね次のような内容となります。

①山地と台地の基盤をなす小仏層、丹沢層群およびそれらの地形のあらまし ②約 300～200 万年前に海底だった相模原とその周辺 ③相模川がつくった段丘の地形と地層 ④西方の諸火山の活動で生じた関東ローム層と第四紀後期の環境変化史 ⑤相模川・相模野はどのように変化してきたか ⑥相模原と周辺地域の地下水と湧水 ⑦相模原の気候 ⑧後世に伝えたい地学的な遺産

なお、記述に当たっては約 50 点ほどの図表の使用が計画されています。

## 動植物分野

動植物分野は、「相模原の環境と生き物」と「相模原の動植物相」とで構成されます。前者は旧相模原市域におけるそれぞれの地域の特性に着目し、①市街地 ②段丘崖の緑地 ③台地の緑地 ④相模川・境川水系とその他の水域 ⑤その他(米軍関係地)に分けて記述されます。

また、自然と生き物についての話題をコラムとして掲載することとしています。



(カブトムシ・道保川公園；岩野秀俊氏撮影)

## 編さん室の動き 5月・6月

5/9 日 石造物・景観調査記者説明

10 日 「現代通史編」内容検討小委員会開催

13 日 資料燻蒸（市立博物館の燻蒸に合わせ資料搬入）

19 日 学校教育推進協議会で石造物等調査への協力依頼

20 日 総務課文書引継ぎ

22 日 市川市が視察に来室

23 日 資料調査（藤野町吉野）

26 日 文化遺産部会開催

6/3 日 資料調査（藤野町佐野川）

4 日 旧津久井町の廃棄公文書から歴史的公文書収集

7 日 自然部会・近現代部会開催

18 日 資料調査（田名塩田、大島）

21 日 市史講演会「戦後相模原の都市化と市民生活の変容」開催

## 彫刻・絵画・古文書を重点的に



～社寺調査～ 文化遺産部会（5月26日）報告

今回の部会では、社寺の文化遺産の調査について、どのような方法で調査するかが話し合われました。

旧市内の社寺については、昭和58年度に「相模原市文化財現況調査」が行われており、このときの資料カードなどをもとに検討した結果、彫刻・絵画・古文書に重点を置いて調査を行うことになりました。具体的には、予備的な調査の実施と併行して、2～3か所の社寺について8月に各分野合同の調査を計画することとしました。

## 『現代通史編』～構成の骨格決まる～ 近現代部会（6月7日）報告

今回の部会では、内容検討小委員会（5月10日開催）で練り上げた構成案についての検討を行いました。

その結果、『現代通史編』の構成を3部12章とし、第1部「戦後」（「戦後」への前提、占領と戦後改革、基地の街相模原の表情、相模川の開発と畑地灌漑事業の4章）第2部「高度成長期」（市の誕生、工場誘致と産業振興、都市化の進行と都市問題、都市の中の基地化の4章）第3部「現在」（基地をめぐる市民運動、「中核都市」の骨格と福祉、社会教育と学校教育、合併と政令指定都市への道の4章）としました。さらに各章には5～7節を設けることにし、執筆担当者も決定しました。



今後は、節の項目を各執筆担当者が考え、内容検討小委員会での検討を経た後、7月26日開催予定の次回の部会で最終的な構成を決定することになりました。

## 講演会を開催

平成20年6月21日（土）に市史講演会「戦後相模原の都市化と市民生活の変容」を市立博物館大会議室で開催しました（写真）。

講師は浜田弘明さん（市史編集委員会委員・桜美林大学教授）で、地形図から見る相模原の変遷や、今春刊行された『相模原市史現代資料編』所収の資料を通して、急速に進んだ都市化の様子を説明していただきました。参加者は75名で、みなさんは紹介されたさまざまな写真に熱心に見入っていました。

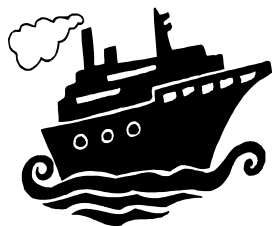


次回の講演会は、平成21年3月21日（土）「日本歴史の中の相模原」の予定です。詳細は、「広報さがみはら」やこの「市史編さんだより」などでお知らせします。

## 資料の生きるまで

### 第1回

落とし薫蒸を行い、種類・内容別に分類して封入し、さらに年代順に整理した目録・台帳を作成して、ようやく活用できる「資料」となります。



市史編さん事業では、各分野でさまざまな資料の収集を進めています。この連載では文書資料を取りあげ、その資料が活用できるようになるまでを紹介します。

収集した資料は保存・保管のため、ほこりを

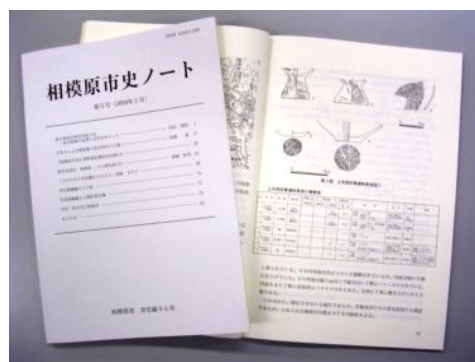
今年の4月24日に、相模湖町与瀬の坂本家を訪れました。同家は旧与瀬宿の本陣名主役を務めた旧家。当家の故坂本是成氏は昭和30年代後半から50年代前半まで相模湖町長を務められました。江戸時代の文書は既に神奈川県立歴史博物館に寄贈されていますが、保管箱にして13箱分の町長時代の文書類をいただくことができました。

次号以降、この資料の整理作業過程を逐次報告していきます。

## 『相模原市史ノート第5号』刊行 600円で好評販売中！

市史編さん室では毎年、事業の状況や研究成果をお知らせする『相模原市史ノート』を刊行していますが、今年3月に第5号（写真）を刊行しました。

今回は「連合軍放出物活用協力会」一放出物資の処理と活用をめぐって―「平本さん上矢部採集の弥生時代の土器」  
「相模原市史資料探訪懇談会記録（2）」「歴史余話⑤ 相模原―その歴史性（3）―」などを掲載しています。



### 市史・町史の主な刊行物

- ◇ 相模原市史「現代資料編」価格 3,700円 「現代図録編」価格 1,500円  
相模原市史ノート第5号 価格 600円

以上のお問合せは市史編さん室へ 電話 042-750-8025(直通)

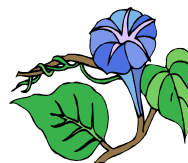
- ◇ 「津久井町史 資料編 考古・古代・中世」 価格 2,900円
- ◇ 「津久井町の昆虫Ⅱ」 価格 1,500円

以上のお問合せは津久井町地域自治区事務所(町史編さん担当)へ 電話 042-784-0433(直通)

- ◇ 「相模湖町史 自然編」 価格 11,550円

以上のお問合せは相模湖町地域自治区事務所へ 電話 042-684-3211(代表)

- \* これらの刊行物は、市立図書館・公民館などで閲覧できます。また、販売は市史編さん室・市立博物館・行政資料コーナーで行っています。「現代資料編」「現代図録編」については下記の書店でも販売しています。



#### 「現代資料編」「現代図録編」 販売書店

紀伊国屋書店相模原店（相模大野） ブックスアミ南口店（相模大野） 柴胡書房（文京） ブックス山田（松が枝町）  
相模書房本店（相模台） 渡辺書店（相模台） 相模書房女子美術大学店（麻溝台） 久保田書店（千代田）  
中村書店淵野辺本店（淵野辺本町） 中村書店ダイエー店（上溝） 中村書店本店（横山） 三基書房（田名）  
中村書店田名店（田名） 中村書店橋本店（西橋本） 有隣堂ミウイ橋本店（橋本） カクダイ書店（二本松）  
山本書店（津久井町中野） 敏正堂（相模湖町与瀬） ふじの書房（藤野町小淵）